

4月



櫛田川と立梅井堰（筆者撮影）



## あの日のあの川 リレー日記 ～第67話～



あの日のあの川  
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

### 第67話主人公 藪和史

（筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川（直）研究室『川と人』ゼミ）

（□川ガール・■川系男子）

（出身地を流れる川：三重県：阪内川、櫛田川）

### 「故郷の記憶」

いつのこと？： 幼少期～現在

どこの川？： 櫛田川

こんにちは。熊谷さんからバトンを受け取りました筑波大学白川研究室の藪和史です。

今回のリレー日記では私の故郷三重県松阪市を流れる櫛田川にまつわる思い出を書きたいと思います。

櫛田川は三重県松阪市飯高町と奈良県吉野郡東吉野村の県境に位置する高尾山にその水源を発し、伊勢湾へと注ぐ一級河川です。

このリレー日記を受け取り、自分の中にある川の記憶を辿った時、真っ先に思い浮かんだのがこの櫛田川でした。

私の祖父母は飯高町に住んでおり、幼少期の頃から週末になると祖父母の住む飯高町へと母親と兄弟と共に通っていました。祖父母の家は山々に囲まれる飯高町の山裾に位置しており、祖父母の家へはその山々から流れ出す櫛田川に沿って進みます。車窓から見える櫛田川は岩肌が露出してゴツゴツしているのが印象的で、流水に削られて水深はかなり深くなっています。

小学生の私にとってこの櫛田川はもっぱらレクリエーションの場としてその役割を果たしていました。

祖父母の家のすぐ隣にはコンクリートで護岸されているものの、沢が流れています。その沢に沿って山を登っていくと砂防ダムと、その横に祠が備えられています。私はその砂防ダムのすぐ下流に堆積した土砂とそこにできた水たまり？（水は絶えず流れている）でよく遊びました。そこにはたくさんの沢カニが生活しており、石をひっくり返して追いかけて回したり、祖父母の家から持ってきた食べ物を置いて食べているところを観察したことを覚えています。また魚を探したり、石を動かして小さな河道を作ったり水を堰き止めたり。マムシが隅に鎮座しているのを見つけた時には経験したことのない恐怖を感じました。この日記を書きながら、受験期には砂防ダムの上に敷物と机を置いて勉強していたことも思い出しました。祖父母が山を登って蚊取り線香やおやつを持ってきてくれたことがとても懐かしいです。

また夏になると櫛田川の本流にも遊びに行きました。小学生の時には櫛田川のほりにあるキャンプ場でキャンプを行い、とても大切な思い出になりました。

体が大きくなると流れの緩やかなところで泳ぐようにもなりました。それはそれはとても気持ち良いものです。しかし潜った時には底は深すぎて全く見えず、少し流れの速いところへ行くとものすごいエネルギーを感じます。両親や祖父母からの心配の声も相まって川の恐ろしさ、死というものをものすごく身近に感じる経験でもありました。その岩肌のゴツゴツとした風貌も相まって子供ながらに現実感を伴った畏怖の念を抱きました。

幼少期の自分にとってはレクリエーションの場でしかなかった川ですが、大学に入って治水や利水といった川の持つ人々の生死に関わる側面を知り、学問の対象として川に興味を持つようになりました。川には本当にたくさんの要素が関わっており、どれを中心に据えるか悩み深いところです。それでも自分のスピードで、楽しみながらやっていたらと思います。

(次は玉置千紘さんにバトンを託します)